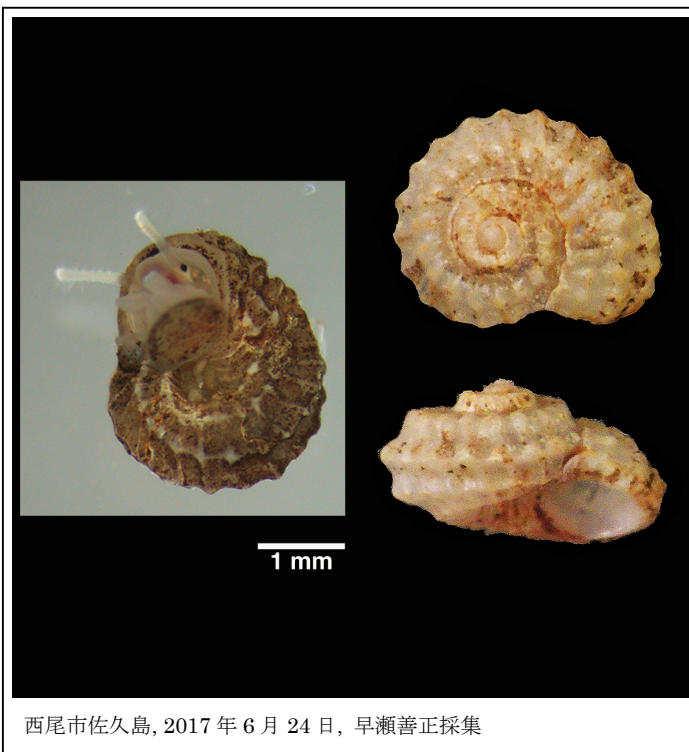


シラギク *Pseudoliotia pulchella* (Dunker)

【選定理由】

本種は内湾の潮下帯砂泥地にすむ。内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種も、日間賀島の潮間帯の転石下や同島南沖水深 2-10 m の砂泥底より死殻は比較的多く採集されたが、生貝は採集できなかった (木村, 1995, 1996)。近年の三河湾内の調査では、前島 (早瀬・他, 2015b)、沖島 (早瀬・他, 2015a)、梶島 (早瀬・他, 2016)、佐久島 (早瀬・木村, 2020)、日間賀島 (早瀬・他, 2019) において、潮通しの良い礫や石の多い潮間帯砂泥底の埋もれ石下面から比較的多くの生貝が確認された。急速な回復状況が確認されたので、前回 (CR) よりランクダウンすべき種と評価された。



【形態】

殻径約 3 mm の微小な円盤形で殻は厚い。殻表には太い螺肋と縦肋が交差して、格子状になる。臍孔は広い。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、県内では近年回復傾向が認められ、三河湾の広い範囲で生貝が採集されるようになった。生息地自体の面積は依然として小さく、分断されている。また本種は、特殊な環境に限定的に生息するが、個体数が比較的多い生息地も認められた。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島に分布し、日本では三陸海岸・男鹿半島～九州まで分布する (福田, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように、県内では長期間、生貝が採集されていなかったが、近年の三河湾内の潮通しの良い礫の多い砂質干潟から転石地にかけての底質の有機物の堆積量が減少し、無酸素層の発生が軽減され、埋もれ石の下面に生息する貝類の回復状況が確認されている。本種はそのような貝類を代表する種である。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

- 福田 宏, 2012. シラギク, p. 42. in: 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 早瀬善正・木村昭一・大貫貴清, 2015a. 沖島 (三河湾) の転石地潮間帯の貝類相. かきつばた, (40): 23-30.
- 早瀬善正・大貫貴清・吉川 尚・松永育之・社家間太郎, 2015b. 前島 (三河湾) の転石地潮間帯の貝類相 - 特徴的な 16 種の記録. ちりぼたん, 45 (3): 105-122.
- 早瀬善正・木村昭一・河辺訓受・川瀬基弘・林 誠司・西 浩孝・守谷茂樹・石井健一郎・大貫貴清・岩田明久・仲田彰男, 2016. 梶島 (三河湾) の潮間帯の貝類相. かきつばた, (41): 27-39.
- 早瀬善正・木村昭一, 2020. 佐久島 (三河湾) の潮間帯貝類相. ちりぼたん, 50 (1): 33-79.
- 早瀬善正・木村昭一・西 浩孝・守谷茂樹・岩田明久, 2019. 日間賀島 (三河湾) の潮間帯貝類相. かきつばた, (44): 1-15.
- 木村昭一, 1995. 日間賀島南部海岸の潮間帯付近の軟体動物相. 研究彙報 (第 34 報): 16-27. 全国高等学校水産教育研究会.
- 木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報 (第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

(木村昭一)